資料5

いなべ市民の移動実態と公共交通に関するアンケート調査結果



1. アンケート調査概要

- **市民の日常的な移動実態や公共交通の利用状況、非利用者が利用可能となる場面・条件、公共交通に期待する役割等を把握するため、いなべ市民を対象としたアンケート調査を実施。**
- **現在のバス利用者の利用状況や満足度、バスの利用にあたり重要視する事項等を把握するため、バス利用者向けのアンケート調査も併せて実施。**

■市民アンケート

実施スケジュール	令和7年9月3日（水）※順次発送～10月3日（金）
調査目的	・市民の現状の移動実態と公共交通の利用状況の把握 ・実態・利用状況と移動や公共交通に対する意識を踏まえた、公共交通の課題等の把握 ・公共交通等の顕在的、潜在的な移動需要等の把握 ・過去に実施した調査結果を踏まえた過去からの利用ニーズの変化等の把握 ・新たなモビリティ（AIデマンドタクシー、自動運転等）に関する認知度や利用ニーズの把握
調査項目	①個人属性　④バスの利用状況 ②顕在的需要　⑤バス運行に対する意識・課題 ③潜在的需要　⑥最新の交通モビリティの認知度・利用意向
調査対象	無作為に抽出された市内居住者4,000世帯 ※北勢町、員弁町、大安町、藤原町で各1,000部ずつ配布 抽出作業は、いなべ市にて実施
調査方法	・郵送配布・郵送回収 ・自治会代表者を通じた依頼文の配布・webアンケートによる回収 ・webアンケート（QRコードの配布）
回収数	3,241票 ・郵送アンケート：2,399票(1,416世帯)　回収率※：35% ※回収率は、郵送した4000世帯に対して世帯ごとに返信された封筒数 ・webアンケート：842票

■バス利用者アンケート

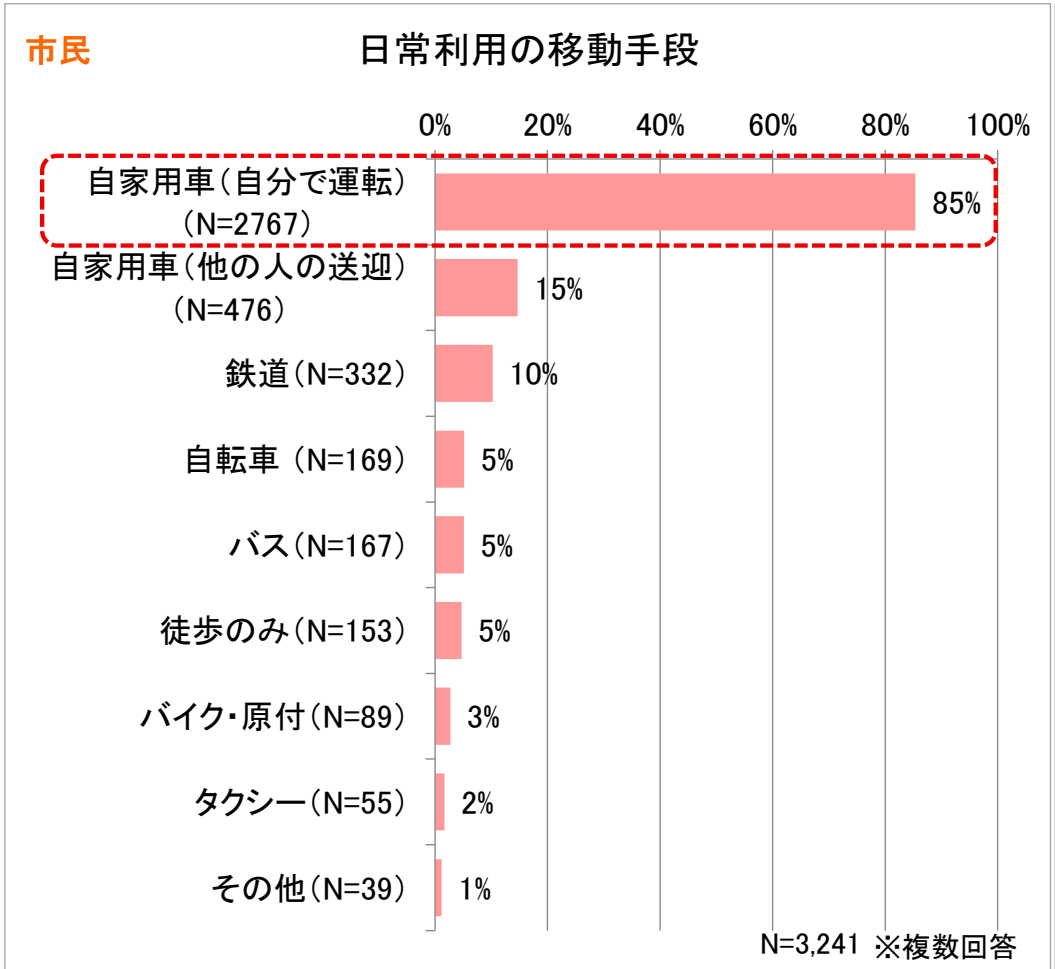
実施スケジュール	バス停調査　：令和7年10月28日（火） バス車内調査：令和7年10月29日（水） （チラシ掲載：令和7年10月28日（火）～11月14日（金））
調査目的	・バス利用者の利用状況（目的、頻度、乗り継ぎの有無）や満足度の把握 ・新たなモビリティ（AIデマンドタクシー、自動運転等）に関する認知度や利用ニーズ ・バス利用者と市民全体の意識の違いを把握
調査項目	①個人属性　③バス運行に対する意識・課題 ②バスの利用状況　④最新の交通モビリティの認知度・利用意向
調査対象	A.バス停調査　：バス停※でのバス待ち利用者 （※調査実施バス停：阿下喜駅、イオン大安店、いなべ総合病院、マックスバリュ西、楚原駅、マックスバリュ） B.バス車内調査：バス車内※で乗車中の利用者 （※調査実施路線：立田線、梅戸井線）
調査方法	基本はWebアンケート(QRコード)で回答を依頼 （Webアンケートが難しい方には聞き取り形式で調査） A.主要バス停にてアンケート調査のチラシ（QRコード）を配布 B.バス車内でチラシ(QRコード)の周知又は調査票への記入依頼
回収数	36票（郵送回収28票：web回収８票）（配布枚数：62枚）

2. 利用状況

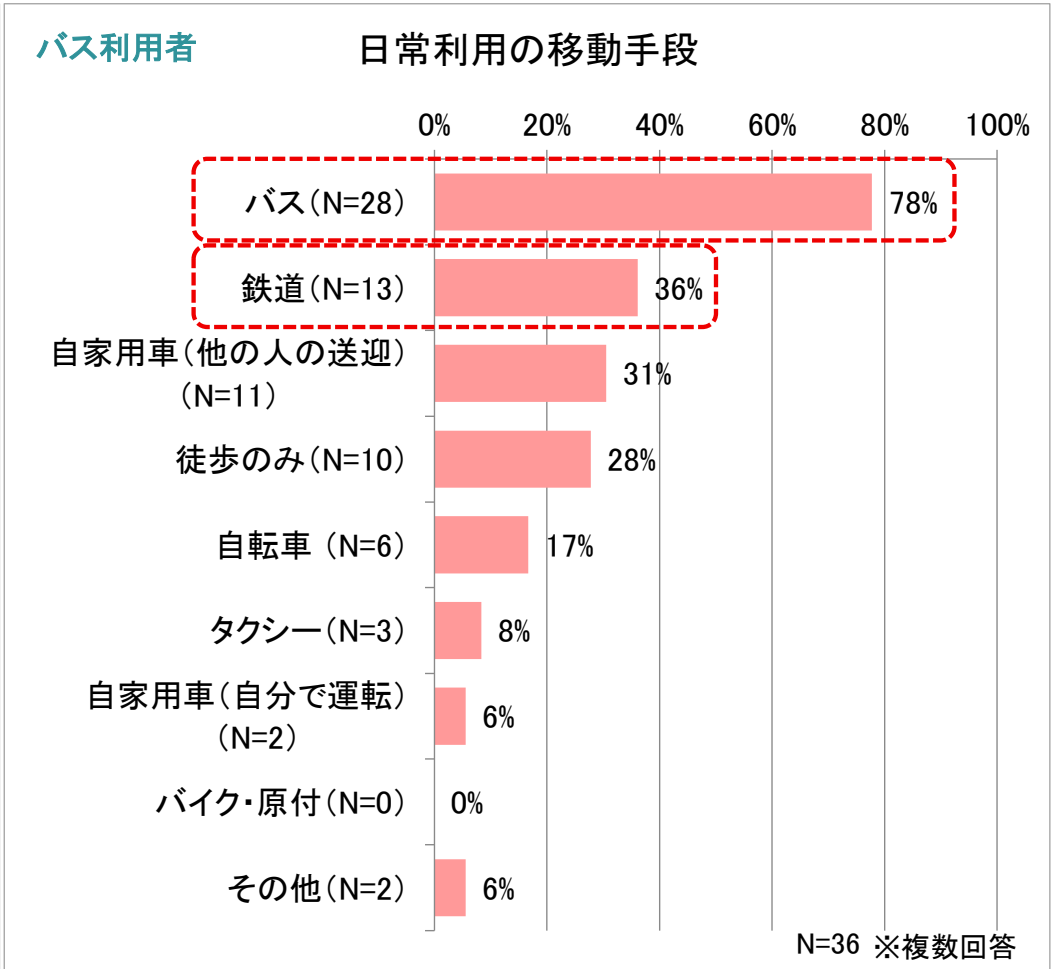
- 市民）日常の移動手段は、「自家用車（自分で運転）」が最も多く約85%。
- バス利用者）日常の移動手段は、「バス」が最も多く約78%、次いで「鉄道」が約36%。

【日常の移動手段】

■市民アンケート



■バス利用者アンケート



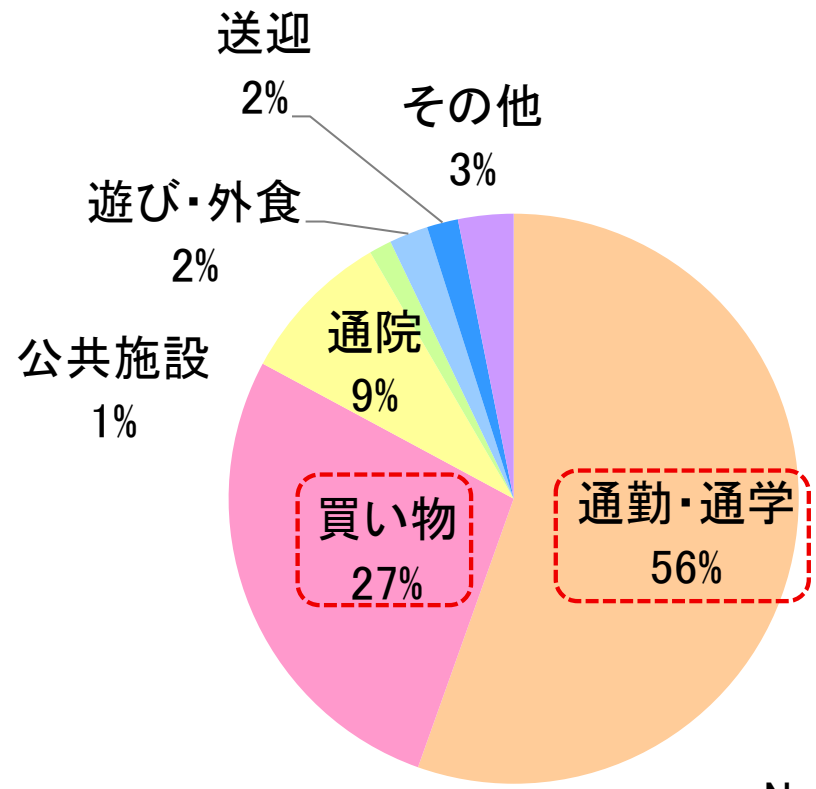
2. 利用状況

- 市民）外出目的は、「通勤・通学」が最も多く約56%、次いで「買い物」が約27%。
- バス利用者）外出目的は、「買い物」が最も多く約50%、次いで「通院」が約30%。

【外出の目的】

■市民アンケート

市民　外出目的（平日①）



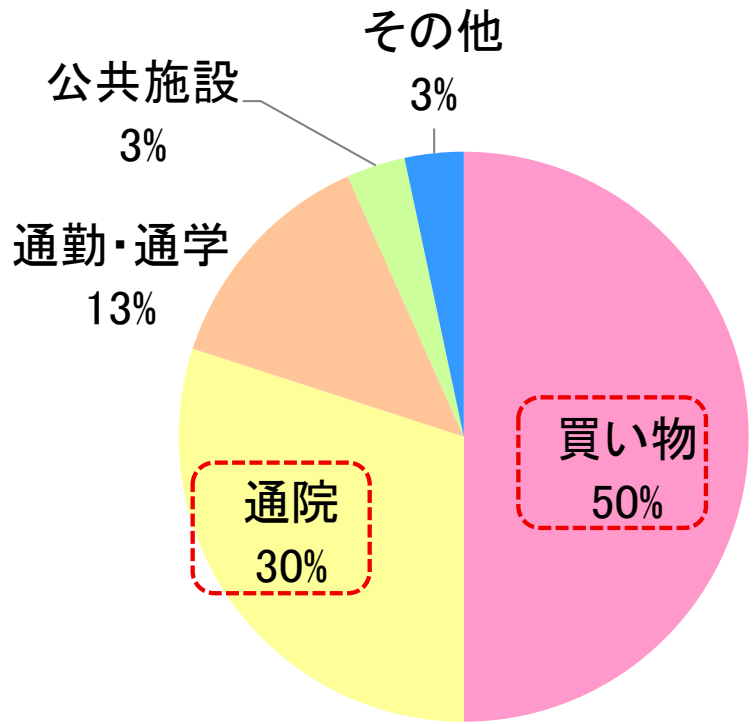
N=2,992

※無回答を除く

※平日2パターンのうちの1つ目の割合を掲載

■バス利用者アンケート

バス利用者　外出目的



N=30

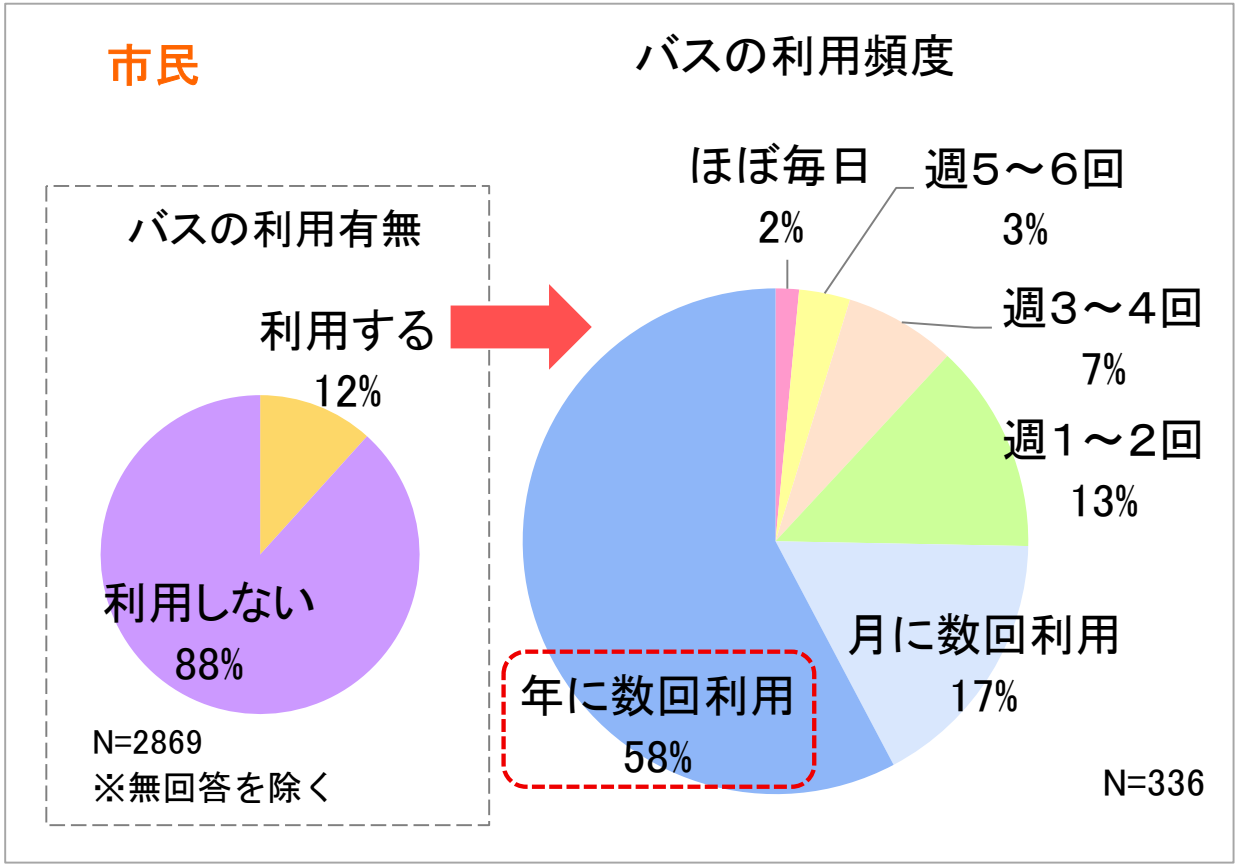
※無回答を除く

2. 利用状況

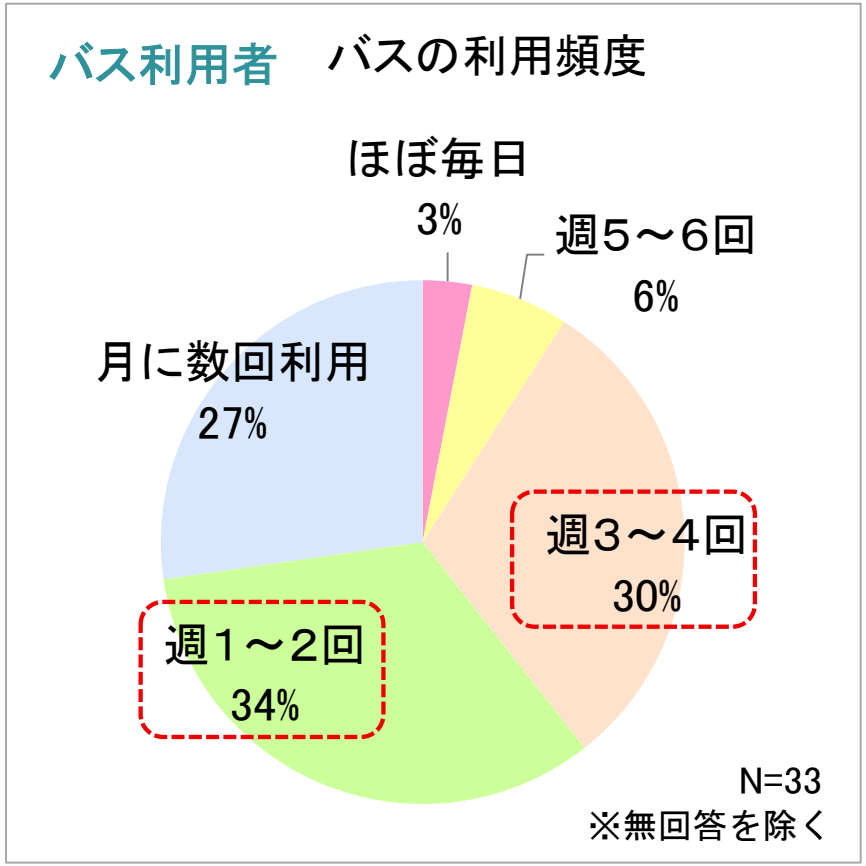
- 市民）バスを利用すると回答した人のバスの利用頻度は、「年に数回利用」が最も多く約58%。
- バス利用者）バスの利用頻度は、「週1～2回」が最も多く約34%、次いで「週3～4回」が約30%。

【バスの利用頻度】

■市民アンケート



■バス利用者アンケート



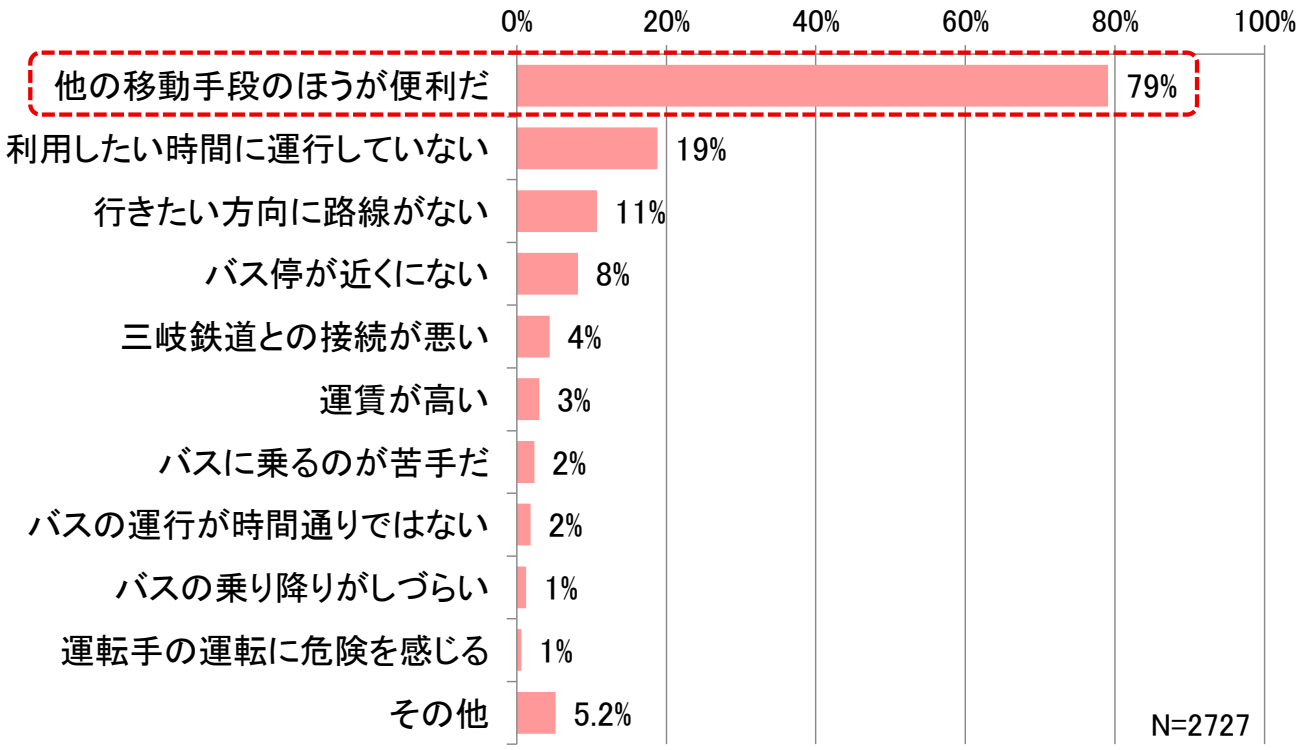
2. 利用状況

- 市民）バスを利用しない理由は、「他の移動手段のほうが便利だ」が最も多く約79%。

【バスを利用しない理由】

■市民アンケート

市民



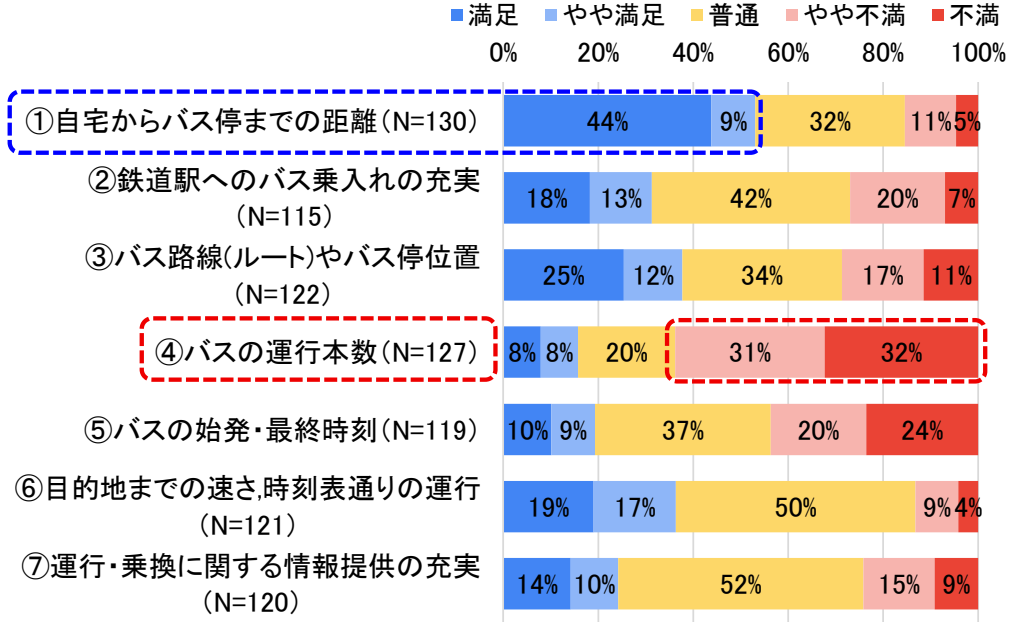
※バス利用頻度が「年に数回」「利用しない」のみ
※複数回答

3. 福祉バスの満足度・重要度

- 市民）「①自宅からバス停までの距離」について約53%が満足している一方、「④バスの運行本数」では約63%が不満。
- バス利用者）「⑧運転手の対応」「⑨運転の安全性」「⑩乗り降りのしやすさ」について約74%が満足している一方、「④バスの運行本数」では約47%が不満。

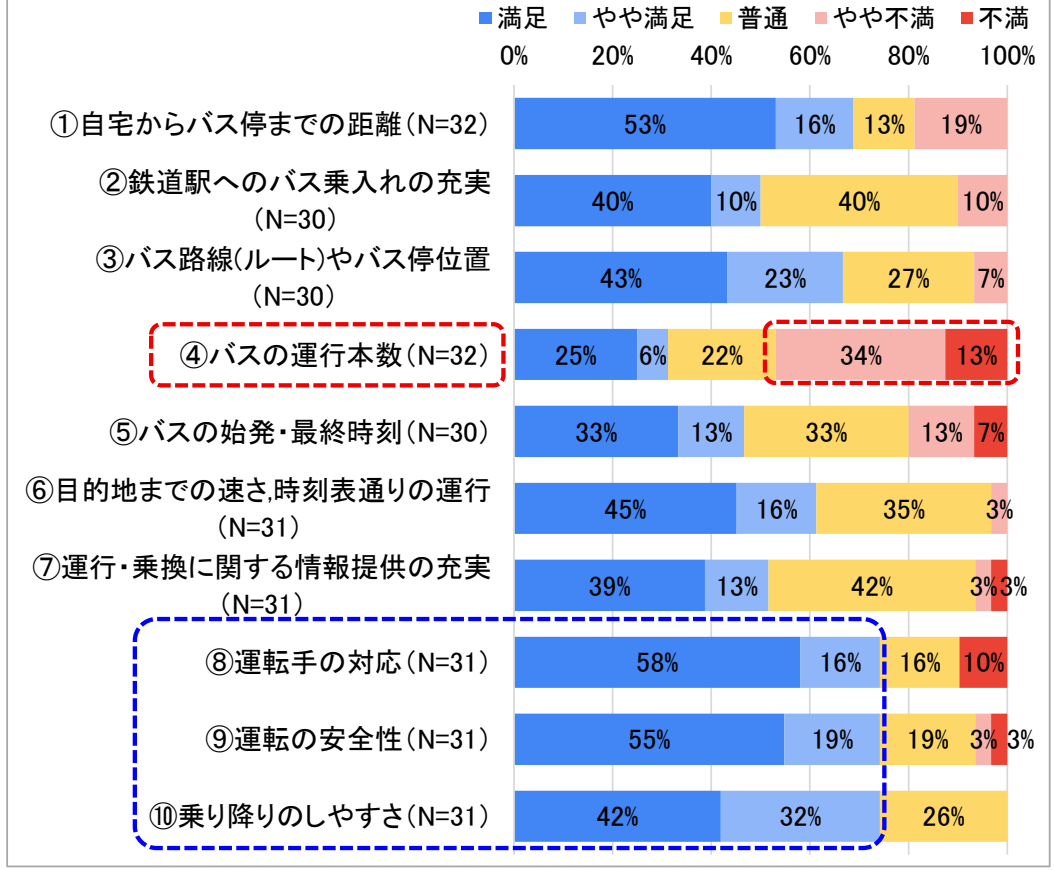
【バスの満足度】

■市民アンケート



※バス利用頻度が「月に数回利用以上」のみ

■バス利用者アンケート

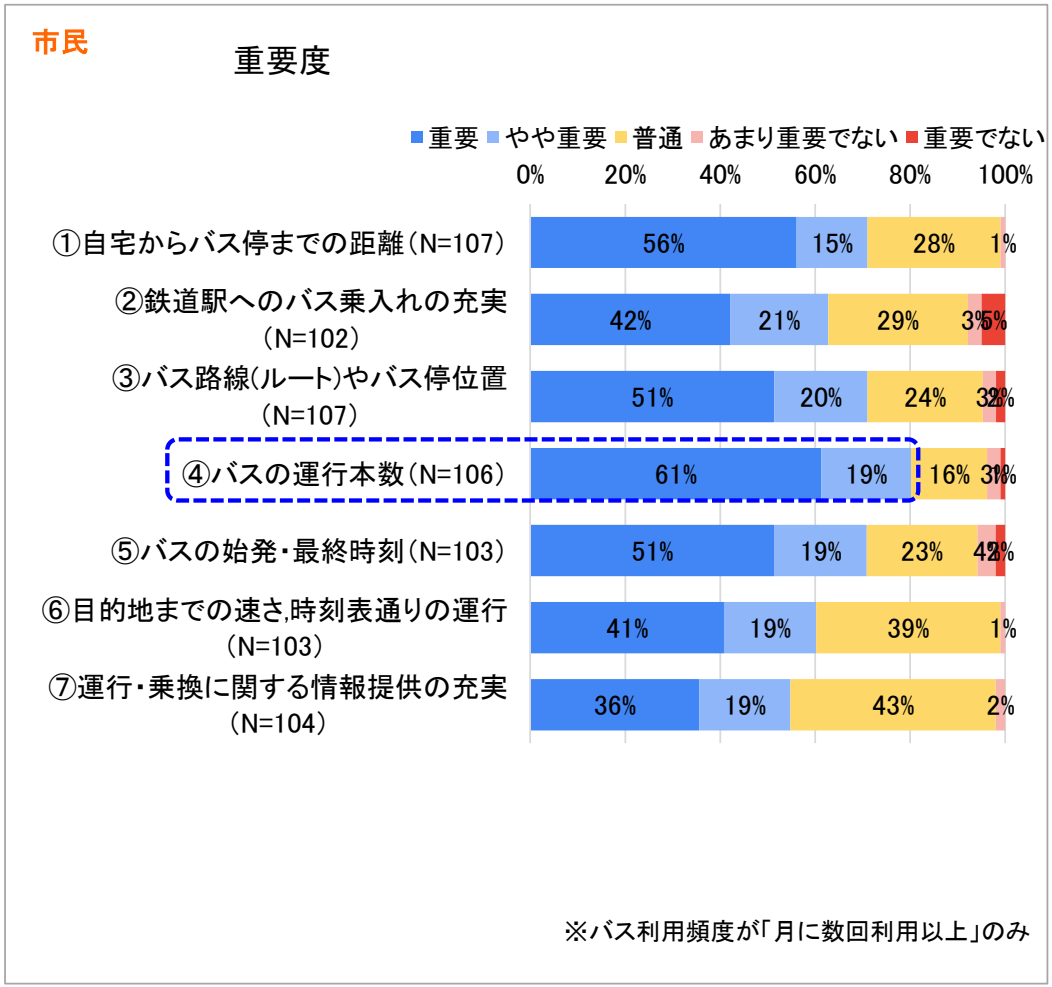


3. 福祉バスの満足度・重要度

- 市民）「④バスの運行本数」について約80%が重要としている。
- バス利用者）「④バスの運行本数」について約81%が重要としている。次いで、「③バス路線(ルート)やバス停位置」「⑨運転の安全性」についても約79%が重要としている。

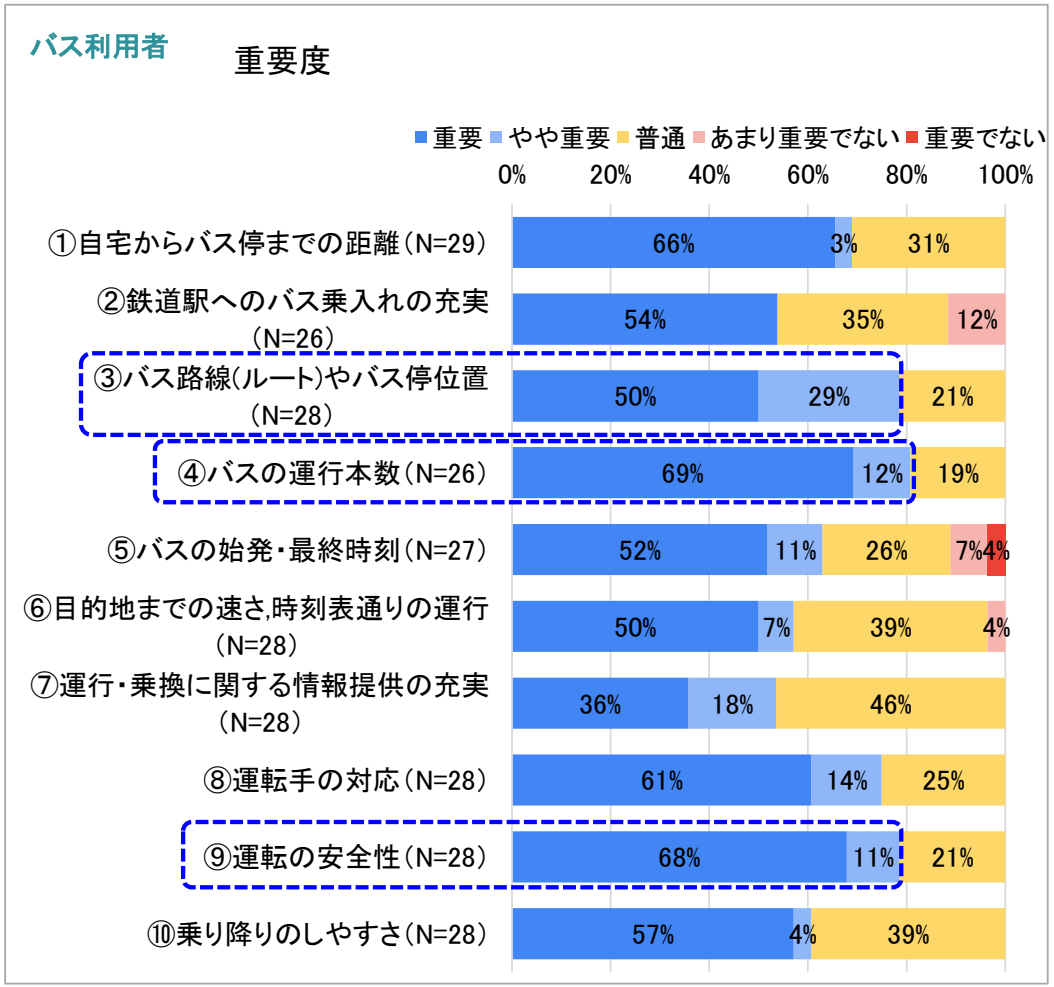
【バスの重要度】

■市民アンケート



※バス利用頻度が「月に数回利用以上」のみ

■バス利用者アンケート



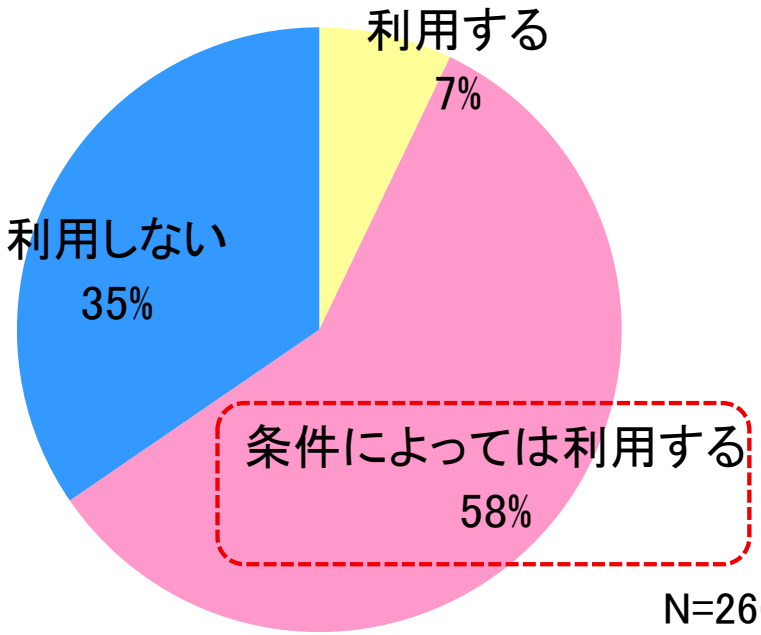
- **市民）AIオンデマンド交通の利用意向は、「条件によっては利用する」が最も多く約58%。**
- **バス利用者）AIオンデマンド交通の利用意向は、「条件によっては利用する」が最も多く約48%。**

【AIオンデマンド交通の利用意向】

■市民アンケート

市民

AIオンデマンド交通の利用意向



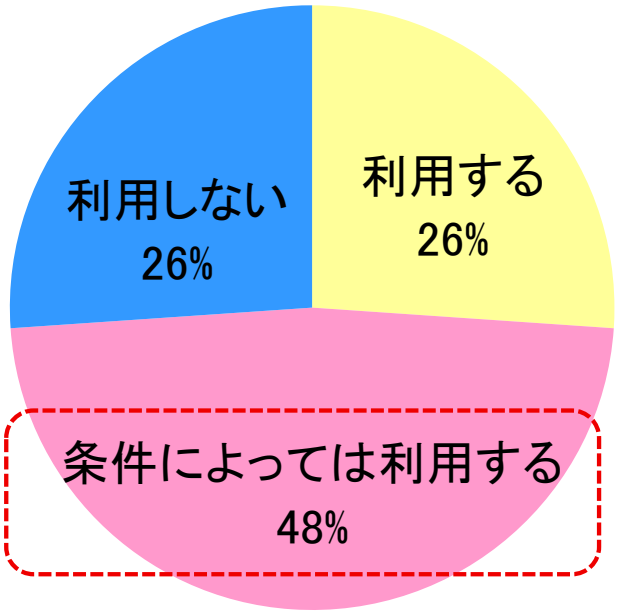
N=2668

※無回答を除く

■バス利用者アンケート

バス利用者

AIオンデマンド交通の利用意向



N=23

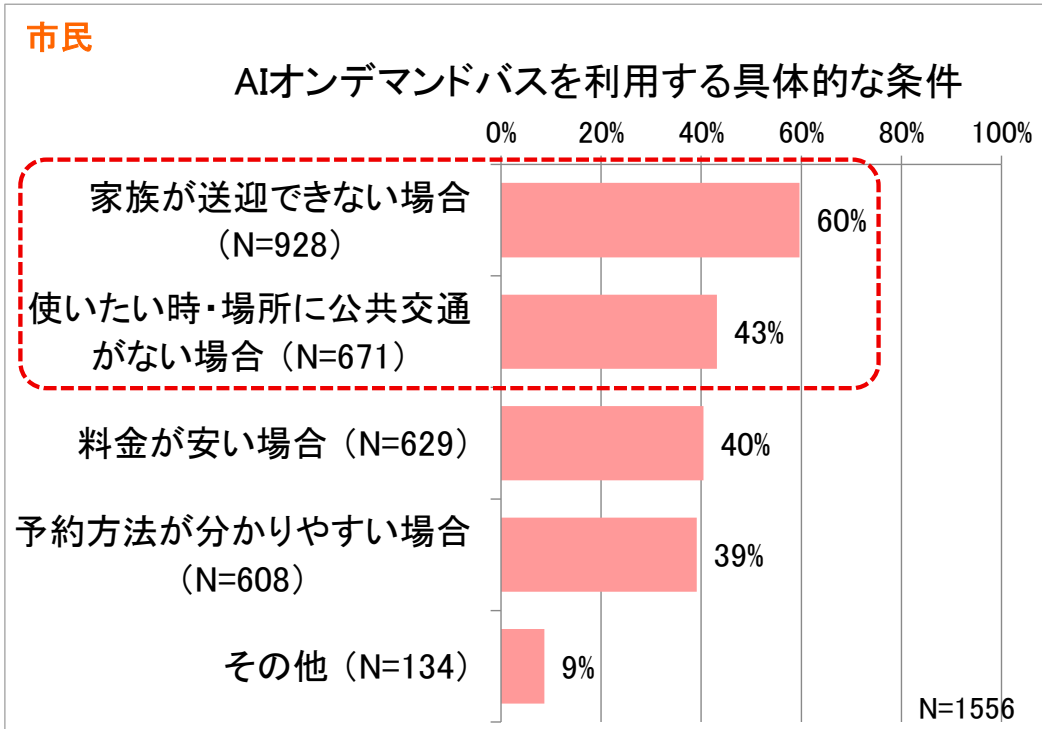
※無回答を除く

4. AIオンデマンド交通の利用意向

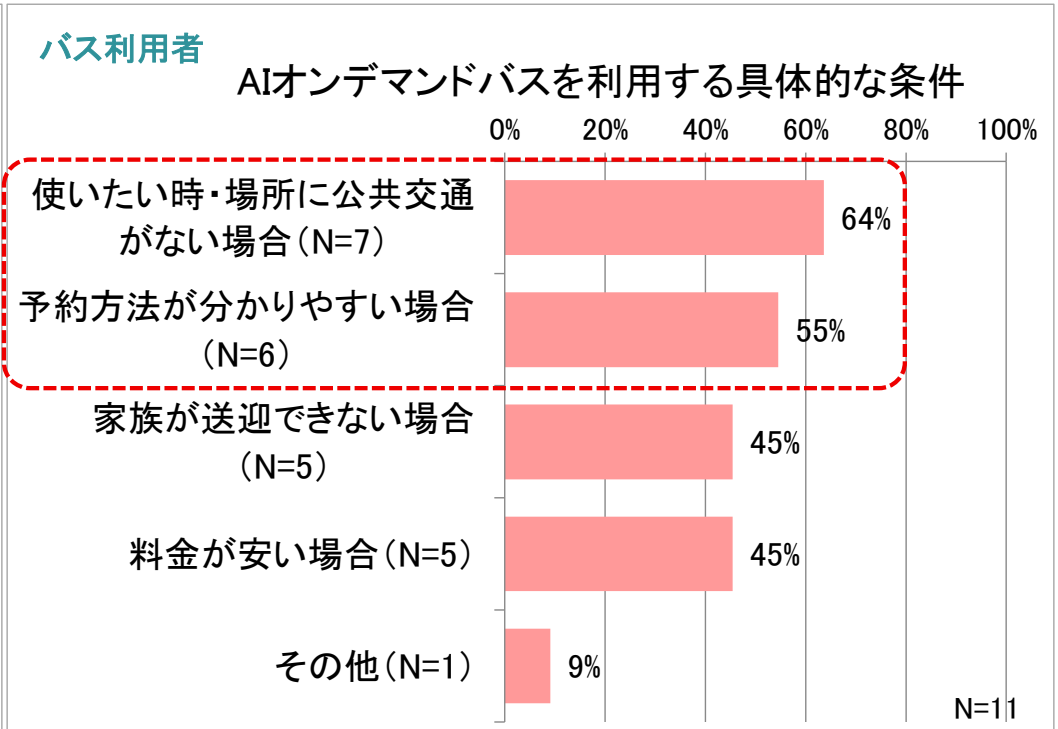
- 市民）利用に際しての具体的な条件は、「家族が送迎できない場合」が最も多く約60%、次いで「使いたい時・場所に公共交通がない場合」が約43%。
- バス利用者）利用に際しての具体的な条件は、「使いたい時・場所に公共交通がない場合」が最も多く約64%、次いで「予約方法が分かりやすい場合」が約55%。

【AIオンデマンド交通の利用意向】

■市民アンケート



■バス利用者アンケート



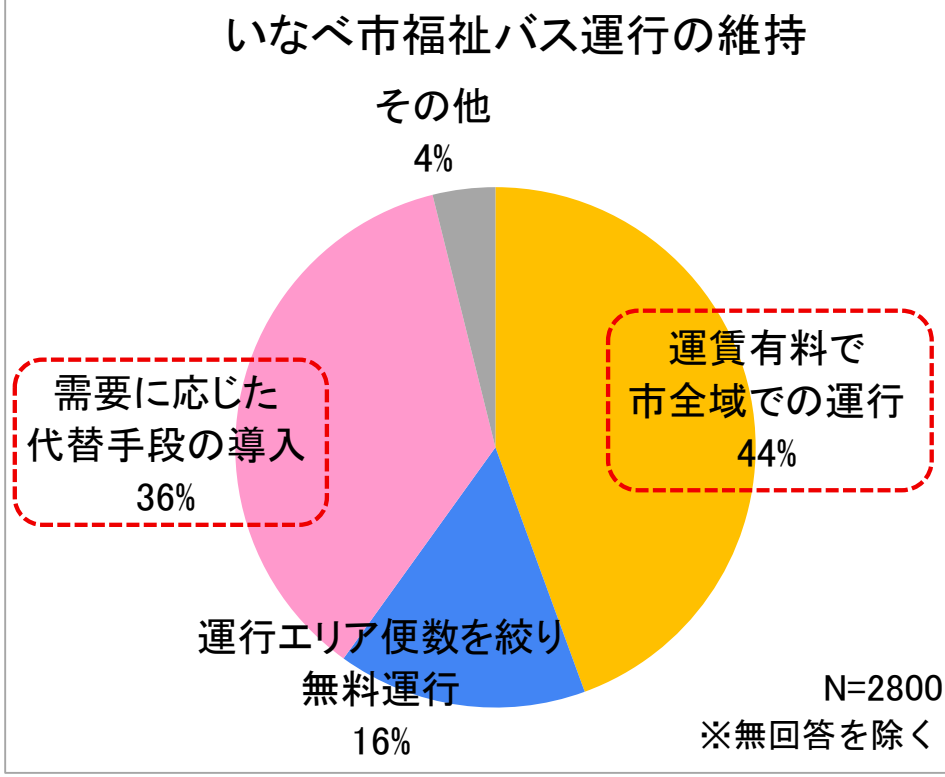
5. いなべ市福祉バスの運行方法の在り方

- 市民）いなべ市福祉バス運行の維持は、「運賃が有料となっても市全域で福祉バスを運行すべき」が最も多く約44%、次いで「定時ではなく利用需要・利用時間に応じて効率的に運行する代替手段も導入すべき」が約36%。
- バス利用者）いなべ市福祉バス運行の維持は、「運賃が有料となっても市全域で福祉バスを運行すべき」が最も多く約53%、次いで「運行エリア・便数を絞ってでも無料で福祉バスを運行すべき」が約31%。

【福祉バス運行の維持についての考え方】

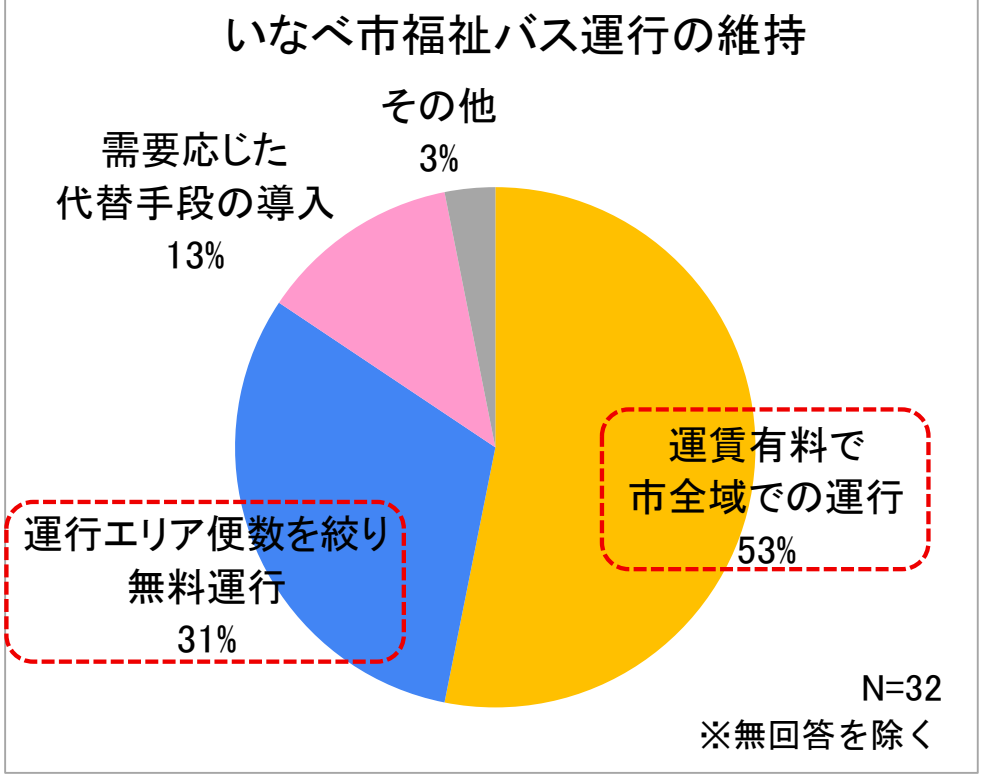
■市民アンケート

市民



■バス利用者アンケート

バス利用者



5. いなべ市福祉バスの運行方法の在り方

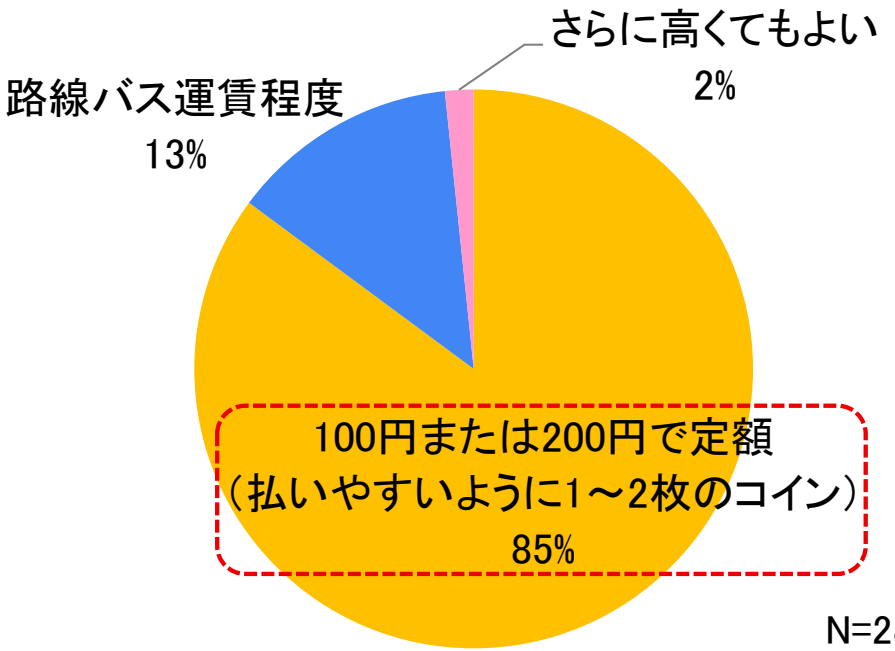
- 市民）運賃が有料の場合の金額設定は、「100円または200円で定額（払いやすいように1～2枚のコイン）」が最も多く約85%。
- バス利用者）運賃が有料の場合の金額設定は、「100円または200円で定額（払いやすいように1～2枚のコイン）」が最も多く約87%。

【運賃の適正】

■市民アンケート

市民

運賃が有料の場合の金額設定

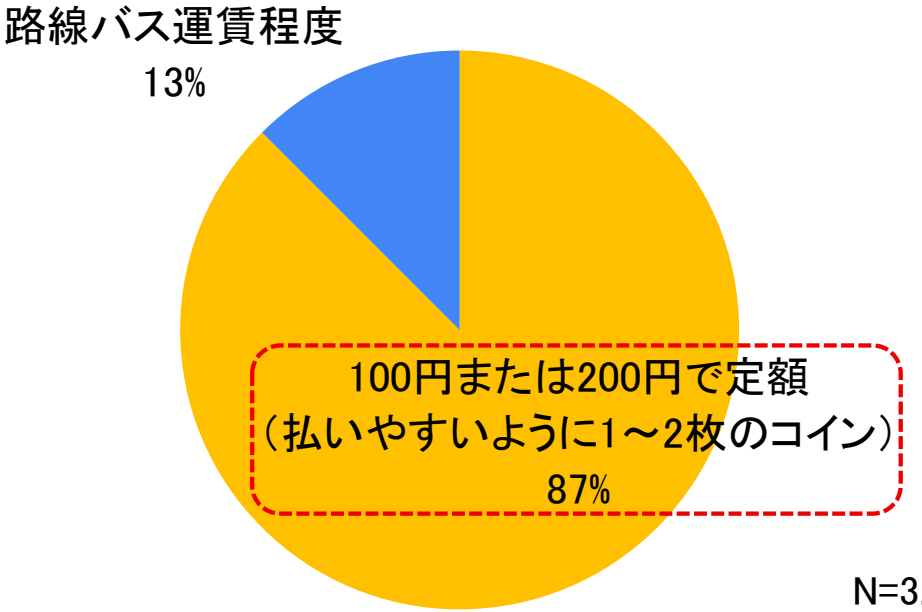


N=2800
※無回答を除く

■バス利用者アンケート

バス利用者

運賃が有料の場合の金額設定



N=32
※無回答を除く

6. 移動をあきらめた経験・頻度

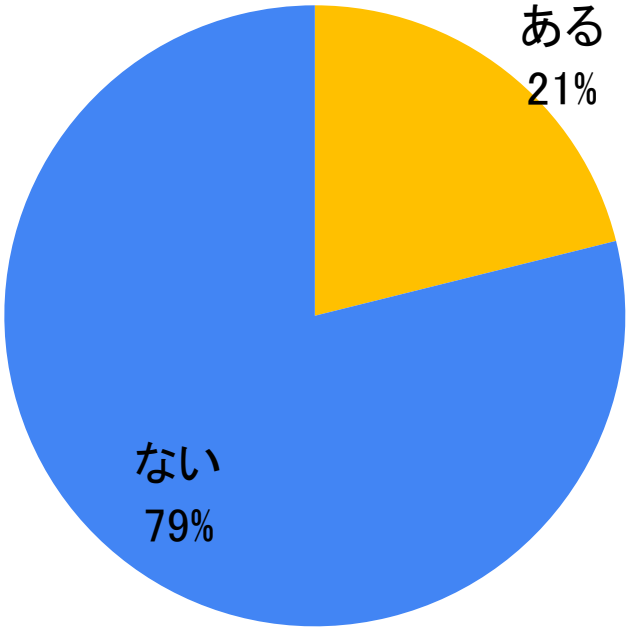
- 市民）移動をあきらめた経験は、「ある」が約21%、「ない」が約79%。
- 市民）移動をあきらめたときの移動目的は、「遊び・外食」が最も多く約39%、次いで「買い物」が約20%。

【移動をあきらめた経験】

■市民アンケート

市民

移動をあきらめた経験



N=2628

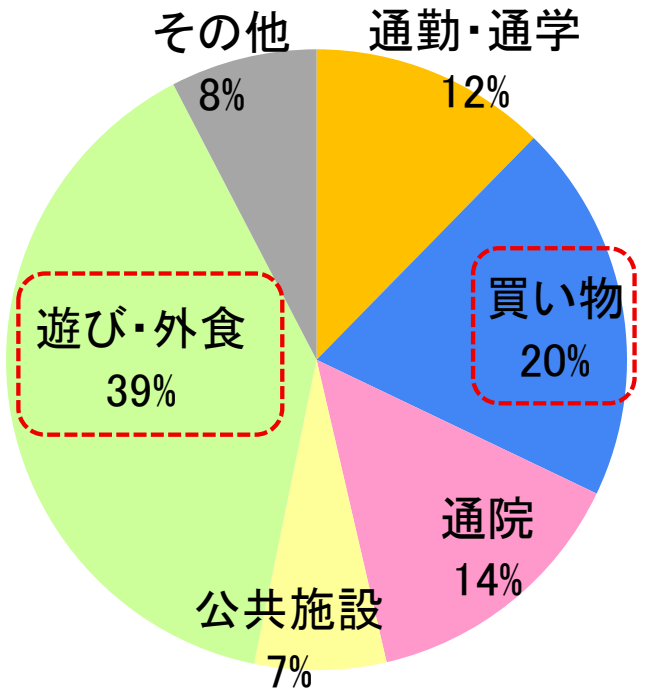
※「あきらめた経験あり」のみ
※無回答を除く

【移動をあきらめたときの移動目的】

■市民アンケート

市民

移動をあきらめたときの移動目的



N=511

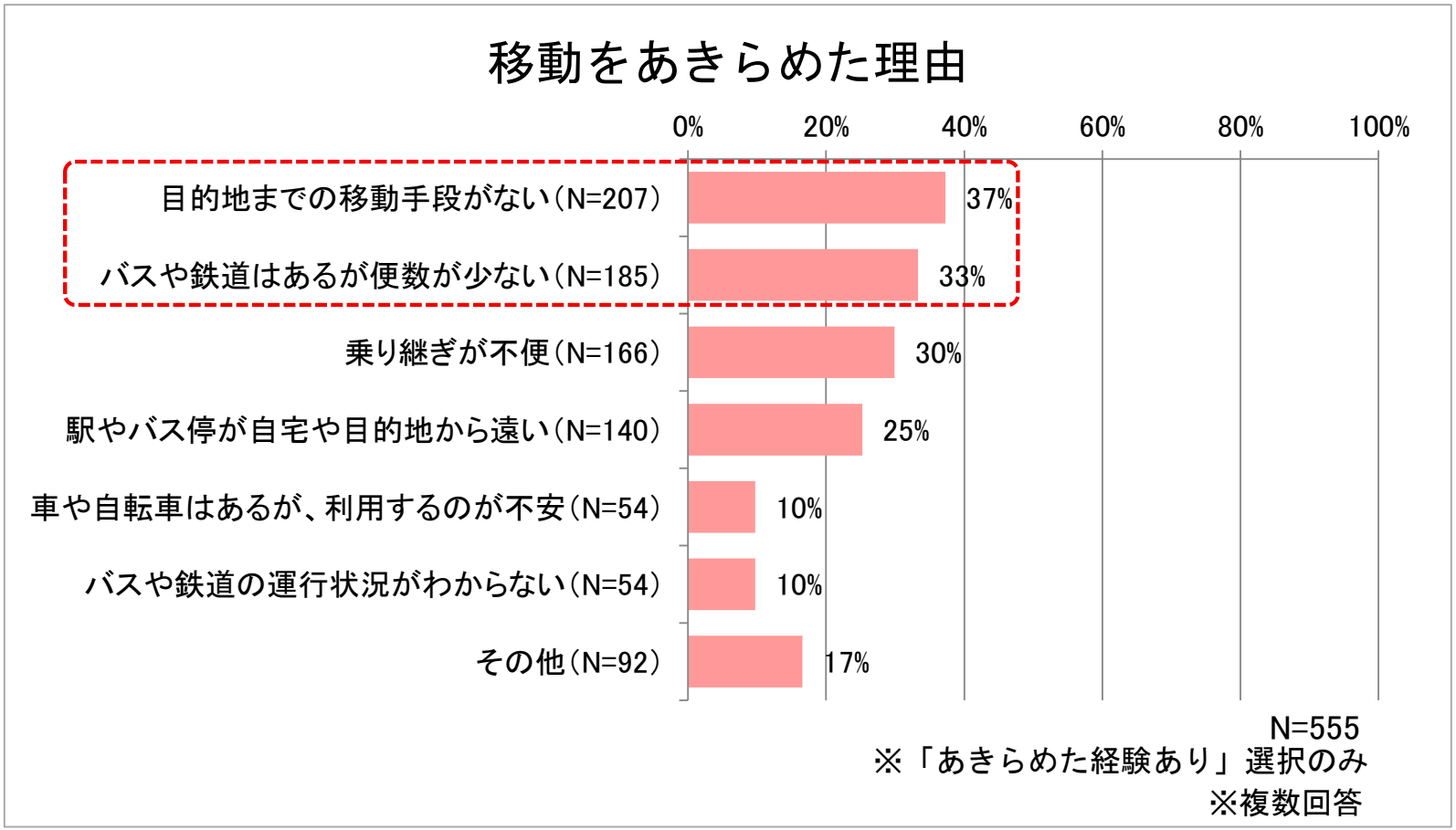
※「あきらめた経験あり」のみ
※無回答を除く

6. 移動をあきらめた経験・頻度

- 市民）移動をあきらめた理由は、「目的地までの移動手段がない」が最も多く約37%、次いで「バスや鉄道はあるが便数が少ない」が約33%。

【移動をあきらめた理由】

■市民アンケート



7. 自由意見

- **藤原町や北勢町は、鉄道やバスとの乗り継ぎ利便性向上や乗り換えの負担軽減に関する意見が多くみられた。**
- **大安町や員弁町は、隣接市町へのアクセス性向上に関する意見が多くみられた。**
- **いなべ市全体で、市役所へのアクセス性向上に関する意見がみられた。**

藤原町

乗り継ぎ利便性	• **鉄道駅発着時間帯とバスの発着時間が合わず**長く待たなくてはいけない便がある。 • **目的地、他交通への連絡（乗り換え）**を充実してほしい。
目的地までのアクセス性	• **坂本線**で、いなべ総合病院やマックスバリューは行きますが、**かかりつけの病院は行けない**です。 • **市役所**に行きたくても、最寄りのバス停から**直通のバスはなく、乗り継ぎが必要。**

北勢町

乗り継ぎ利便性	• イオン大安にも路線が繋がらず**何度も乗り換え**たりと行きにくい。 • 子どもの通学など、**乗り換えが多く**複雑。
目的地までのアクセス性	• 山郷地区に住んでいるが、**１本のバスで市役所に行き来できない。** • **市役所**へ行きたくても本数が少なくて時間が合わずわざわざ阿下喜駅で**乗り換えもタッチの差で間に合わず**何もない駅前で待たなければ市役所へ行けない。



大安町

隣接市町へのアクセスニーズ	• **東員イオン**をルートに入れて欲しい。 • **東員イオン**行きバスを運行した方が良いと思います。 • **東員イオン**行きが良い。 • いなべから**四日市市**へ行くのが不便。
目的地までのアクセス性	• スーパー、病院、**直通がない。** • 現在のバス運行は**市役所への乗り換え**等時間がかかる。

員弁町

隣接市町へのアクセスニーズ	• 福祉バスで**東員のイオン**まで月１回（往復）でも有ると楽しいし、ありがたいです。 • いなべ市ではなく**桑名市、四日市市**の病院に行っていますが、いなべ市福祉バスでは病院には行けません。桑名とつながっているといい思います。
目的地までのアクセス性	• **市役所まで直通**で行けるのが１本でもいいので走ってほしい。 • 色々な手続きをすることが多くなるから**市役所へ直通で行けるといい**です。

8. アンケート結果とりまとめ

①市民の移動実態

- 市民の大半が自家用車を主な移動手段として利用
- バス利用頻度は全体として低い

➢ 自家用車中心の移動。福祉バスをはじめとする公共交通は**主要な移動手段として十分に利用されていない**

②福祉バスの課題

- 福祉バスの運行本数は、満足度が低い一方で重要度が高い
- 市民アンケートで、約9割が福祉バスを利用しないと回答。
- 福祉バスを利用しない理由（バスの運行条件に関する意見）
  ：利用したい時間に運行していない
  ：行きたい方向に路線がない

➢ 運行時間や運行エリアが**利用ニーズと一致していない**

③AIオンデマンド交通へのニーズ

- AIオンデマンド交通の導入に対し、条件によっては利用したい市民が多数
- 利用する条件・状況
  ：家族などが送迎できない場合の移動手段として利用
  ：行きたい場所に公共交通がない場合に利用

➢ 既存交通を補完する**新たな移動手段として期待**

④福祉バスの運行方法・運賃に関する意向

- 有料となっても全域で運行すべきと考える市民は約5割
- 100～200円程度の運賃であれば容認する市民が多い

➢ **低額運賃での有償化には一定の理解**がある